

凄

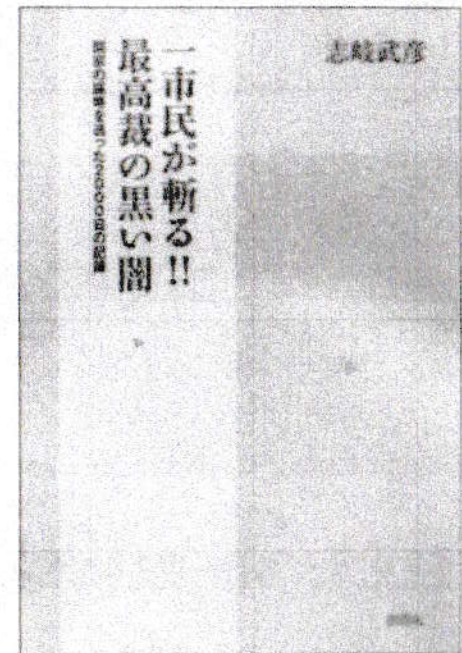
い本が出た。本書は、この国の最高権力者の一つである最高裁事務総局を相手に戦った、一市井人の、2000日の記録である。

本書で記されているとおり、私は小沢一郎を嵌めた国策捜査を追及すべく、著者と協力して検察審査会の不正を暴こうとした。その過程でこの国の司法のすべては最高裁が取り仕切っていることを知った。

しかし、最高裁の悪行を追い詰める事はほとんど不可能である。政治家も官僚もメディアも、最高裁には楯突けないからだ。だから私は途中であきらめた。その私が脱帽する著者の執念がこの本を世に送り出したのだ。

最高裁は、あの田中耕太郎最高裁長官が1959年の砂川判決で見せた通り、日本の司法を米国に売り渡した卑劣な組織だ。そのことが米国の機密公電で明らかになった。

それだけではない。最高裁の裏金疑惑を告発した生田暉雄弁護士（元裁判官）や、最高裁の救いがたい人事の実態を明らかにした瀬木比呂志明治大学法科大学院教授（元裁判官）が教えにくれた事は、最高裁という司法官僚の組織の反国民性だ。最高裁は、最高裁を批判する者を決して名誉毀損で訴えたりはしない。無視することでそれらの告発を葬り去ろうとする。



## 暴かれる 最高裁の姑息さ

天木直人

あまき なおと/元駐レバノン大使

『一市民が斬る!! 最高裁の黒い闇 国家の謀略を追った  
2000日の記録』  
志岐武彦=著 鹿砦社  
1400円+税 ISBN978-4-8463-1073-8

それでも私は最高裁批判を止めない。イラク戦争に反対した

特命全権大使の私に勇退を迫った竹内行夫外務事務次官(当時)を、判事として迎えたのが最高裁だった。その竹内外務事務次官は違憲と知りながら自衛隊のイラク派遣を認めた男だ。憲法の番人が聞いてあきれられる。

この国の権力者が一番恐れるのは、世論と言う名の国民の怒りだ。すべては権力者を疑うところから始まる。

# 本



『戦場のコックたち』

深緑野分=著 東京創元社

1000円+税 ISBN978 4 499 02750